

# 地方創生推進交付金等活用事業の実績について

## (平成 30 年度実績)

本市では、「市原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成 27 年度策定)に掲げる施策を推進するため、国の地方創生推進交付金<sup>※</sup>を活用した各種事業の展開に取り組んでいます。

この中では、関連する事業を「プロジェクト」としてパッケージ化し、相乗効果による成果の創出に取り組んでいます。

あわせて、プロジェクトごとに KPI(重要業績評価指標)を設定し、毎年度において成果検証を行い、必要に応じて事業の改善や強化を進めています。

平成 30 年度は、KPI 全 9 件のうち 7 件が目標値以上の実績となるなど、概ね目標を達成し、成果創出につなげることができました。その詳細について報告します。

令和元年8月

市原市企画部総合計画推進課  
地方創生推進室

---

### 目次

1	世界に一番近い「SATOYAMA」プロジェクト (地域資源を活かした観光振興).....	2
2	ICT 活用による産地再生と高品質農産物生産プロジェクト (次世代農業の推進).....	6
3	市原市の暮らしを彩る地域産業創生・人材育成プロジェクト (産業支援センターによる中小企業支援と起業・創業支援).....	9
4	2018(平成 30 年度)における各プロジェクトの事業実施状況 .....	13

※地方創生推進交付金…地方創生に取り組む自治体に対する国の財政支援のひとつ。自治体の総合戦略に位置付けがあり、国から地域再生計画の認定を受けた事業に対し、複数年(3 年又は 5 年)にわたって国が事業費の 1/2 を支援する制度。官民連携や政策間連携など高い先駆性が求められる。

# 1 世界に一番近い「SATOYAMA」プロジェクト (地域資源を活かした観光振興)

## (1) 計画概要

- ◆ 東京圏外周に広がる里山や周辺地域一帯を「文化創造圏」として、人が創り上げた自然である里山と、そこで培われた歴史・文化・民俗・芸術の交流、地域を縦断する小湊鐵道、さらにはそれらの体験を主要なコンテンツとして展開する観光地づくりを君津市など近隣自治体との広域連携により進める。
- ◆ 市原版 DMO を創設し、観光産業全体の推進体制を構築する。
- ◆ 羽田・成田の両空港の中間に位置する好立地を活かして、世界に一番近い「SATOYAMA」ブランドを創出し、2020 年を見据えた、国内主要都市やインバウンドをターゲットとする広域観光産業づくりを目指す。

## (2) 計画期間

- ◆ 2016(平成 28)年度～2020(令和 2)年度 5 年間

## (3) 主な実施状況

年度	実施状況
2018 (H30)	①観光地づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小湊鐵道沿線の景観整備への支援</li> <li>・ DMO 設立に向けた市原市観光協会の体制強化</li> </ul> ②しごとづくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農家レストラン商品開発への支援</li> </ul> ③地域活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域おこし協力隊は、菜種油「ハルイチバン」の展開、牛久商店街活性化等を実施</li> </ul> ④愛着と誇りの創生 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史のミュージアム事業基本設計に基づき、拠点施設の建築と展示環境構築のための実施設計を実施</li> </ul> ⑤シティプロモーションの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シティプロモーション冊子を制作、イベント等で配布</li> <li>・ 外部有識者による懇話会、職員向け研修を実施</li> </ul>

年度	実施状況
2017 (H29)	<p>①観光地づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小湊鉄道沿線の景観整備への支援</li> <li>・ 新たな観光ルートの開発に向けた観光路線バス「房総さとやま GO」の実証運行(君津市・大多喜町との広域連携事業)</li> <li>・ 観光プロモーション(君津市・大多喜町との広域連携)</li> <li>・ DMO 設立に向けた市原市観光協会の体制強化</li> </ul> <p>②しごとづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農家レストラン商品開発への支援</li> <li>・ 観光地への商品等流通経路の検証</li> </ul> <p>③地域活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域おこし協力隊は、菜種油の商品化に向けた試作品の制作などを実施</li> </ul> <p>④愛着と誇りの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史のミュージアム事業基本計画の策定と拠点施設の基本設計を実施</li> </ul>
2016 (H28)	<p>①観光地づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小湊鉄道沿線の景観整備への支援</li> <li>・ 養老溪谷駅前広場の改修支援</li> <li>・ 市原市観光振興ビジョンの策定</li> <li>・ 新たな観光ルートの開発に向けた観光路線バス「房総さとやま GO」の実証運行(君津市との広域連携事業)</li> <li>・ 観光プロモーション(君津市・大多喜町との広域連携)</li> </ul> <p>②しごとづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農家レストラン商品開発への支援</li> <li>・ 観光地への商品等流通経路の検証</li> </ul> <p>③地域活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域おこし協力隊の指名(1名)</li> <li>・ いちはらポイント制度構築に向けたニーズ調査・研究</li> </ul>

#### (4) 成果検証

##### ① KPI(重要業績評価指標)

ア 小湊鉄道観光利用乗車人数(1日フリー乗車券・房総横断鉄道乗車券・観光列車乗車券)(千人)

年度	2014 基準値	2015	2016	2017	2018	2019	2020	累計
実数	31	41	75	74	73			
目標値	—	—	3	3	3	3	7	19
実績値	—	10	34	▲1	▲1			32
評価	—	—	◎	△※	△※			

目標値及び実績値は各年度における対前年度増減数を示す(以下同様)。

◎＝目標値以上、○＝目標値の概ね8割以上、△＝その他

※対前年度では△、実数ベースでは目標値を達成

イ 観光入込客数(千人)※上段:総数 中段:市原市 下段:君津市

年	2015 基準値	2016	2017	2018	2019	2020	累計
実数	6,469	6,554	6,521	6,245			
	3,523	3,505	3,561	3,631			
	2,946	3,049	2,960	2,614			
目標値	—	129	133	139	144	199	744
	—	10	10	10	10	60	100
	—	119	123	129	134	139	644
実績値	—	86	▲33	▲276			▲223
	—	▲17	56	70			109
	—	103	▲89	▲346			▲332
評価	—	△	△	△			
	—	△	◎	◎			
	—	○	△	△			

ウ 地域団体による新規事業化数(件)

年度	2015 基準値	2016	2017	2018	2019	2020	累計
目標値	—	0	1	2	2	1	6
実績値 (累計)	0	0 (0)	1 (1)	2 (3)			3
評価	—	—	◎	◎			

② KPI の検証

年度	KPI の検証
2018 (H30)	<p>ア小湊鉄道観光利用乗車人数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2016年度と同規模の年間約7万3千人を維持。</li> <li>里山トロッコ列車を軸にした観光コンテンツの総合的な魅力向上が必要。</li> </ul> <p>イ観光入込客数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市原市は約7万人増、君津市は約34万6千人減で目標値を下回った。</li> <li>市原市は、スポーツツーリズムの視点から集計対象施設を追加し約27万1千人の増加、一方でアートイベント・上総いちほら国府祭りにおける台風の影響により約20万2千人の減少。</li> <li>君津市は、紅葉の不調等によるイベント来場者数の減少が影響しているものと思われる。</li> </ul> <p>ウ地域団体による新規事業化数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「出張牛久商店街」の企画運営及び加茂地区の空き家活用の取り組みにより、2018(H30)年度の目標値を達成。</li> </ul>

年度	KPI の検証
2017 (H29)	<p>ア小湊鉄道観光利用乗車人数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2016 年度と比較すると微減、ただし 2016 年度は目標値 10 倍以上の実績があり実数では 2016 年度と同規模の年間約 7 万 4 千人を維持。</li> <li>・ 里山トロッコ列車の運行や沿線の菜の花など観光地としての魅力が定着しつつある。</li> </ul> <p>イ観光入込客数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市原市は約 5 万 6 千人増、君津市は約 8 万 9 千人減で目標値を下回った。</li> <li>・ 市原市では、ゴルフ場利用者数の増加やいちほらアート×ミックス等による効果が伺える。</li> <li>・ 君津市では、清水溪流広場(濃溝の滝・亀岩の洞窟)のブームが落ち着き、近隣の道の駅の入込客数が大きく減少したことが影響しているものと思われる。</li> </ul> <p>ウ地域団体による新規事業化数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 菜の花を利用した「ハルイチバン」プロジェクトの実施により、2017(H29)年度の目標値を達成。</li> </ul>
2016 (H28)	<p>ア小湊鉄道観光利用乗車人数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小湊鉄道トロッコ列車の運行等により目標値を大幅に上回った。</li> </ul> <p>イ観光入込客数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市原市・君津市ともに目標値を下回った。</li> <li>・ 君津市の清水溪流広場(濃溝の滝・亀岩の洞窟)の訪問者数など実態が反映されていない部分があり、今後、計測地点等についての検討が必要。</li> </ul> <p>ウ地域団体による新規事業化数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域おこし協力隊の活動の初年度であるため 0 件としている。</li> </ul>

## (5) 今後の方向性

- ◆ 交流人口の増加に向け、地磁気逆転地層等を含む地域資源を活用した観光地としての魅力向上に一層取り組む。
- ◆ 市原版 DMO の申請登録に向け、観光協会の経営基盤強化に取り組む。
- ◆ 里山を活用した体験型観光プランの作成、トイレなど観光地としての環境整備を進め、観光客の誘客につなげる。
- ◆ 里山団体の活動内容の発信を通じ、新たな担い手の確保など団体活動を支援する。
- ◆ 地域おこし協力隊の継続・拡充と、協力隊による起業や事業化への支援を行う。
- ◆ 市民の郷土への誇りと愛着を育み、歴史遺産を支える人材の育成や新たな交流の創出につなげるネットワークの拠点として、ミュージアムの整備を進める。
- ◆ 君津市や大多喜町など周辺自治体との広域連携に取り組み、周辺地域一体の地域振興につなげる。
- ◆ 民間メディアとの連携、SNS の積極活用等によるシティプロモーションの強化に取り組む。

## 2 ICT 活用による産地再生と高品質農産物生産プロジェクト (次世代農業の推進)

### (1) 計画概要

- ◆ 市原の農業のブランド力向上や担い手の確保、雇用機会の創出等による人口減少の抑制に向けて、次世代の農業を見据えた意欲的な取組の支援や、有害獣による農作物被害の防止に向けた地域住民との協働による捕獲体制の強化、老朽化が進む梨園を効率的に改植するための栽培方法の実証実験などを行う。

### (2) 計画期間

- ◆ 2016(平成 28)年度～2018(平成 30)年度 3 年間 ※計画期間終了

### (3) 主な実施状況

年度	実施状況
2018 (H30)	①条件不利地における新たな営農モデルの構築 ・ 耕作放棄地の土壌改良、養蜂業の実施、有機栽培の実施 ②農作物被害の防止 ・ 専門家や野外カメラを活用した有害獣の生態調査など科学的対策の実施 ③梨の早期成園化・作業の省力化 ・ 新たな栽培方法の実証試験を継続実施 ・ 栽培技術と付加価値の向上に向けた栽培・加工講習会の実施
2017 (H29)	①条件不利地における新たな営農モデルの構築 ・ 耕作放棄地の土壌改良、養蜂業の実施 ②農作物被害の防止 ・ 専門家や野外カメラを活用した有害獣の生態調査など科学的対策の実施 ③梨の早期成園化・作業の省力化 ・ 新たな栽培方法の実証試験を開始 ・ 栽培技術と付加価値の向上に向けた初心者向け栽培マニュアルの作成、栽培講習会の実施、加工講習会の実施
2016 (H28)	①条件不利地における新たな営農モデルの構築 ・ 大規模農地の再生やICTを活用した圃場管理、植物工場による野菜生産 ②農作物被害の防止 ・ 専門家との連携による長期的視点に立った科学的対策の実施

## (4) 成果検証

### ① KPI(重要業績評価指標)

ア 次世代農業活用による雇用者の増加数(人)

年度	2015 基準値	2016	2017	2018	累計
目標値	—	19	10	8	37
実績値 (累計)	0	18 (18)	8 (26)	9 (35)	35
評価	—	○	○	◎	○

目標値及び実績値は各年度における対前年度増減数を示す(以下同様)。

◎=目標値以上、○=目標値の概ね8割以上、△=その他

イ 有害獣捕獲に取り組む町会の増加数(町会)

年度	2015 基準値	2016	2017	2018	累計
目標値	—	5	5	10	20
実績値 (累計)	0 (90)	6 (96)	4 (100)	8 (108)	18 (108)
評価	—	◎	○	○	○

ウ 新しい梨の栽培方法を導入する農家の戸数(戸)

年度	2015 基準値	2016	2017	2018	累計
目標値	—	0	0	5	5
実績値 (累計)	0	0 (0)	1 (1)	6 (7)	7
評価	—	—	◎	◎	◎

## ② KPI の検証

年度	KPI の検証
2018 (H30)	<p>ア次世代農業活用による雇用者の増加数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 条件不利地における養蜂業、養蜂関連加工品販売の本格的な実施により、雇用者数が増加した。</li> </ul> <p>イ有害獣捕獲に取り組む町会の増加数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集落ぐるみでの捕獲を継続的に啓発し、8 町会が新たに取組を開始した。</li> </ul> <p>ウ新しい梨の栽培方法を導入する農家の戸数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新栽培法に必要な大苗の育成・供給を試験的に開始したこと等により、新たに 6 戸の農家での導入につながった。</li> </ul>
2017 (H29)	<p>ア次世代農業活用による雇用者の増加数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農地管理の省力化やハウス内作業マニュアルの徹底により、作業の効率化が図られたことから、目標値に対し 2 名減となった。</li> </ul> <p>イ有害獣捕獲に取り組む町会の増加数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集落ぐるみでの捕獲を継続的に啓発し、4 町会が新たに取組を開始した。</li> </ul> <p>ウ新しい梨の栽培方法を導入する農家の戸数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験圃場での実証試験の開始、生産者・関係団体との検討会や、先進地への視察等を行ったことにより、1 戸の農家で新栽培法が導入された。</li> </ul>
2016 (H28)	<p>ア次世代農業活用による雇用者の増加数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標値に対し 1 名減ったものの、植物工場での野菜の生産・販売を開始した。</li> </ul> <p>イ有害獣捕獲に取り組む町会の増加数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集落ぐるみでの捕獲を啓発し、6 町会が新たに取組を開始した。</li> </ul>

## (5) プロジェクト全体(3 か年)の評価と今後の方向性

### ① KPI 及び計画の達成状況について

- ◆ 全ての KPI において目標値をほぼ(90%以上)達成した。
- ◆ プロジェクトを構成する各事業は改善を重ねながら実行し、想定していた成果を得た。
  - 次世代農業推進事業…ICTの活用による省力的な圃場管理、養蜂業の実施と6次産業化、有機JAS認証等
  - 有害獣対策事業…集落ぐるみの捕獲体制の構築、科学的対策の実施
  - いちはら梨産地再生事業…新たな栽培方法の実証試験の実施、生産者への公開、栽培に必要な大苗の育成・供給

### ② 今後の方向性

- ◆ プロジェクトの実施によって得た成果やノウハウは、生産者や地域団体と共有して市内へ横展開し、本市農業の振興と地域活性化につなげていく。
  - 次世代農業推進事業…モデルケースの周知、取組者の拡大
  - 有害獣対策事業…ICTを活用した捕獲体制の強化、捕獲の効率化
  - いちはら梨産地再生事業…実証試験の継続、実験結果の共有、栽培法の普及



### 3 市原市の暮らしを彩る地域産業創生・人材育成プロジェクト (産業支援センターによる中小企業支援と起業・創業支援)

#### (1) 計画概要

- ◆ 中小企業の経営基盤強化と起業・創業の促進に向け、資金調達、販路開拓や技術革新、人材の確保や育成などの面から総合的な支援策を展開する。
- ◆ 女性や若者などの雇用機会の拡大や、長期雇用に資する人材育成について、産官学労金など多様な地域主体の連携により推進する。

#### (2) 計画期間

- ◆ 2016(平成 28)年度～2018(平成 30)年度 3 年間 ※計画期間終了

#### (3) 主な実施状況

年度	実施状況
2018 (H30)	①産業支援センター <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中小企業や創業希望者等からの相談にワンストップで対応</li> <li>・ 商業者からのニーズに応え、商業に精通するコーディネーターを増強</li> </ul> ②JR3 駅周辺商業活性化支援事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 五井駅周辺で「エリア 51トライアングルフェスタ」を実施</li> <li>・ イトーヨーカドー姉崎店と連携し同店駐輪場で「あねがさきマルシェ」を実施</li> </ul> ③創業等促進ほか <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画どおり実施</li> </ul>
2017 (H29)	①産業支援センター <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2017(平成 29)年 4 月 19 日オープン。</li> <li>・ 市の中小企業コーディネーターによる相談業務を同センターに集約</li> <li>・ 中小企業や創業希望者等からの相談にワンストップで対応</li> </ul> ②JR3 駅周辺商業活性化支援事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 姉ヶ崎駅周辺で「あねがさきマルシェ」を実施</li> <li>・ JR3 駅周辺の空き店舗調査を実施</li> </ul> ③創業等促進ほか <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画どおり実施</li> </ul>
2016 (H28)	①産業支援センター <ul style="list-style-type: none"> <li>・ センターを市原商工会議所内に設置することを決定</li> <li>・ NPO テクノサポートなどの関係団体と協議・調整を経て開設準備</li> </ul> ②JR3 駅周辺商業活性化支援事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性起業家支援ネットの設立、勉強会などを実施</li> <li>・ 専門家による店舗診断の実施</li> <li>・ 五井駅周辺の空き店舗調査を実施</li> </ul> ③創業等促進ほか <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画どおり実施</li> </ul>

## (4) 成果検証

### ① KPI(重要業績評価指標)

#### ア 産業支援センターへの相談件数(件)

年度	2015 基準値	2016	2017	2018	累計
目標値	—	0	150	200	350
実績値 (累計)	—	0 (0)	207 (207)	231 (438)	438
評価	—	—	◎	◎	◎

目標値及び実績値は各年度における件数を示す(以下同様)。  
◎=目標値以上、○=目標値の概ね8割以上、△=その他

#### イ 支援を受けて起業した創業者数(人)

年度	2015 基準値	2016	2017	2018	累計
目標値	—	5	5	5	15
実績値 (累計)	—	39 (39)	31 (70)	49 (119)	119
評価	—	◎	◎	◎	◎

#### ウ 資格取得講座の受講者数(人)

年度	2015 基準値	2016	2017	2018	累計
目標値	—	50	50	50	150
実績値 (累計)	—	52 (52)	60 (112)	80 (192)	192
評価	—	◎	◎	◎	◎

② 検証

年度	KPI の検証
2018 (H30)	<p>ア産業支援センターへの相談件数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業者に伴奏型の支援を実施。商業系の相談体制の強化等により、相談件数は231件となり、目標値を上回った。</li> </ul> <p>イ支援を受けて起業した創業者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業支援センターでの伴奏型支援等を通じ49名が創業し、目標値を上回った。</li> </ul> <p>ウ資格取得講座の受講者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 簿記講習と介護職員初任者研修を80名が受講し、目標値を上回った。</li> </ul>
2017 (H29)	<p>ア産業支援センターへの相談件数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業者に伴奏型の支援を実施。相談件数は207件となり、目標値を上回った。</li> <li>・ 専門家派遣についても見込みを上回るニーズがあった。</li> </ul> <p>イ支援を受けて起業した創業者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業支援センターでの伴奏型支援等を通じ31名が創業し、目標値を上回った。</li> </ul> <p>ウ資格取得講座の受講者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 簿記講習と介護職員初任者研修を60名が受講し、目標値を上回った。</li> </ul>
2016 (H28)	<p>ア産業支援センターへの相談件数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業支援センターは開設前のため相談件数の計上なし。</li> </ul> <p>イ支援を受けて起業した創業者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「市原市創業支援事業計画」の開始年であり、39名が創業し、目標値を上回った。</li> </ul> <p>ウ資格取得講座の受講者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 簿記講習と介護職員初任者研修を52名が受講し、目標値を上回った。</li> </ul>

(5) プロジェクト全体(3か年)の評価と今後の方向性

① KPI 及び計画の達成状況について

- ◆ 全てのKPIについて目標値を大きく上回った。
- ◆ プロジェクトを構成する各事業は改善を重ねながら実行し、計画を上回る成果を得た。
  - 産業支援センター…新規相談、フォローアップともに想定を上回り、多くの事業者に対して伴走型での支援を実施
  - JR3 駅周辺商業活性化支援事業…イトーヨーカドー姉崎店の協力を得た「あねがさきマルシェ」の継続実施、五井駅周辺での「エリア51トライアングルフェスタ」の実施により、子育て世帯が安心して駅周辺を周遊するための仕掛けづくりを実施
  - 中小企業基盤強化連携促進事業…人材育成支援では毎年10社以上の企業を支援、従業員の能力形成や人材育成手法への助言などを実施  
事業補助では3か年で11社を補助し、ものづくり企業の基盤強化を実施
  - 「知の情報拠点」推進事業…ビジネスに関するオンラインデータベースを提供、創業者等への支援を実施

## ② 今後の方向性

- ◆ プロジェクトの実施によって構築した仕組みをさらに進化させ、関係機関との連携を強化し、継続的に市内産業の支援・発展に取り組む。
  - 産業支援センター…商工会議所や金融機関等との連携を一段と強化し事業者のビジネス展開をさらに支援するための仕組みづくり
  - JR3 駅周辺活性化事業…姉ヶ崎駅、五井駅に続いて八幡宿駅周辺の活性化を支援、一過性のイベントではなく継続的な賑わいの創出に取り組む
  - 中小企業基盤強化連携促進事業…人口減少や働き方改革への対応など人材育成と設備投資などソフト・ハードの両面から中小企業支援を強化
  - 「知の情報拠点」推進事業…各事業と連携しビジネスに役立つ情報を積極的に発信

## 4 2018(平成 30)年度における各プロジェクトの事業実施状況

### (1) 1 世界に一番近い「SATOYAMA」プロジェクト

単位：千円

	事業名 (担当課)	事業概要・実績	交付金対象 事業費 (うち交付金)
1	観光地おもてなし事業 (景観整備支援) (観光振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 30 年6月、9月 小湊鉄道月崎・上総大久保駅間の沿線エリアの景観整備を実施</li> <li>同年 11 月 イルミネーション補助</li> <li>平成 31 年2月 小湊鉄道月崎・上総大久保駅間の沿線エリアの花木植栽を実施</li> <li>その他、春と秋に観光誘客のための PR としてポスター及びチラシを作成</li> </ul>	1,500 (750)
2	いちはら歴史のミュージアム整備事業 (ふるさと文化課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査活動や市民との交流、文化財活用に向けた取組を継続</li> <li>基本設計に基づき、拠点施設の建築・展示実施設計業務を完了</li> </ul>	67,001 (33,500)
3	市原市観光協会補助事業 (観光振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市原版 DMO の構築に向けた公益事業を実施</li> </ul>	16,634 (8,317)
4	いちはら魅力発信事業 (シティプロモーション推進課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信力の強化のため、有識者による懇話会の開催やプロモーション研修を実施</li> <li>プロモーション冊子を作成</li> </ul>	1,413 (497)
5	農家レストラン支援事業 (農林業振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元食材を利用したメニューを開発</li> <li>生産者等に向けた農家レストランセミナーを開催</li> </ul>	1,100 (550)
6	ふるさと名物応援事業 (商工業振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 事業者の商品開発事業を採択</li> <li>事業者 1 は商品が完成、販売を開始</li> <li>事業者 2 及び事業者 3 は商品開発に向け試作品の段階まで進んでいたが、完成には至らず</li> </ul>	1,416 (708)
7	有害獣対策事業 (農林業振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジビエ料理の販売促進事業を実施</li> </ul>	993 (496)
8	流通モデル調査研究事業 (商工業振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内商品を一括で流通管理する仕組の構築に向けた調査研究及び検証</li> <li>平成 30 年度は道の駅に問屋機能を付与した実証実験を継続したが、ゼロ予算で対応</li> </ul>	0 (0)

	事業名 (担当課)	事業概要・実績	交付金対象 事業費 (うち交付金)
9	いちはら版地域おこし 協力隊事業 (総合計画推進課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源である菜の花を利用した「ハルイチバン」プロジェクトを実施</li> <li>出張牛久商店街の企画、運営</li> <li>加茂地区の空き家情報をとりまとめ、移住希望者を案内</li> </ul>	3,891 (1,945)
10	いちはら市民大学推進 事業 (生涯学習課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市原市の観光振興や文化財等の保護活用に主体的に携わる市民の育成を目指した専門講座として、観光振興コースと歴史文化リエゾンコースの2コースを実施</li> <li>観光振興コースは年間 13 回講座を開催し、31 名が受講</li> <li>歴史文化リエゾンコースは年間 10 回講座を開催し、33 名が受講</li> </ul>	381 (190)

## (2) 2 ICT 活用による産地再生と高品質農産物生産プロジェクト

単位：千円

	事業名 (担当課)	事業概要・実績	交付金対象 事業費 (うち交付金)
1	次世代農業推進事業 (農林業振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進的な農業技術の導入など、次世代の農業を見据えた意欲的な取組を支援</li> <li>条件不利農地における新たな農業生産体制の構築</li> <li>加工品の開発・販売(6次産業化)</li> </ul>	10,000 (5,000)
2	有害獣対策事業(捕獲 体制の強化) (農林業振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害防止対策を実施するため、アドバイザーによる指導、講習会等を開催</li> <li>有害鳥獣対策協議会 1 回、定例会議 12 回、サル対策会議 5 回、集落環境診断 1 回、情報交換会 3 回、市原市農業委員会研修会 1 回</li> </ul>	2,772 (1,386)
3	「いちはら梨」産地再生 事業 (農林業振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新栽培法の実証試験を継続して実施</li> <li>大苗の育成、供給を試験的に実施</li> <li>栽培・加工講習会を実施</li> </ul>	312 (156)

(3) 3 市原市の暮らしを彩る地域産業創生・人材育成プロジェクト

単位：千円

	事業名 (担当課)	事業概要・実績	交付金対象 事業費 (うち交付金)
1	産業支援センター創設 事業 (商工業振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中小企業や創業者、創業を検討している人を対象とした経営支援、労務・雇用相談等のワンストップ支援や各種情報提供、ものづくり人材育成等の拠点として「市原市産業支援センター」を創設し運営</li> <li>・ 相談件数 231 件</li> </ul>	7,936 (3,968)
2	創業等促進支援事業 (商工業振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創業予定者等に対し、国・県・市・関係機関等の支援制度の周知を図ることを目的にした「市原市創業ガイドブック」を更新</li> <li>・ 創業を検討している方に対して創業に係る基本的な知識の習得を目的とした「創業セミナー」を実施</li> </ul>	1,383 (691)
3	中小企業基盤強化連携促進事業(中小企業人材育成支援事業を含む) (商工業振興課)	<p>(1) 中小企業人材育成支援事業委託</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修機会が不足しがちな中小企業を対象に、訪問相談等を通して各企業に応じた研修計画の作成、講師の派遣、その後のフォローアップまでを行う研修を実施 支援件数 10 社</li> </ul> <p>(2) 中小企業基盤強化連携促進事業補助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製品の高品質化、生産の効率化や低コスト化につながる等の設備投資を行った中小製造業者に対して補助金を交付 交付件数 4 件</li> </ul>	13,168 (6,584)
4	人づくり職業能力開発支援事業 (商工業振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性や若者などの資格取得や就労を支援し、雇用拡大を推進</li> <li>・ 労働相談件数：24 件、介護職員初任者研修参加者：17 人</li> <li>・ 簿記講習参加者：63 人、個別就労相談件数：122 件</li> <li>・ 中小企業新入社員講習参加者：38 人</li> <li>・ 再就職支援セミナー参加者：131 人</li> </ul>	3,372 (1,388)

	事業名 (担当課)	事業概要・実績	交付金対象 事業費 (うち交付金)
5	JR3 駅周辺商業活性化支援事業 (商工業振興課)	<p>(1)JR3 駅周辺トライアル事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 姉ヶ崎駅周辺の活性化を目的とした「あねがさき」マルシェを、会場をイトーヨーカドー姉ヶ崎店の駐輪場に移して、継続的に全8回実施</li> <li>・ 五井駅周辺を子育て世代の家族連れが安心して利用できることを目的として、「エリア51トライアングルフェスタ」を全4回実施</li> <li>・ 八幡宿駅周辺では、飯香岡八幡宮の境内にて「市原煮込み祭り」を実施。また、「歳末セールスピーードクジ」を実施</li> <li>・ 訪日外国人おもてなしの対策として、駅前飲食店127店を対象に公共無線 LAN の導入についてのヒアリングを実施</li> </ul> <p>(2)ネットワーク構築事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内の飲食店の情報を配信するいちほらグルメパスポート事業を実施するためのヒアリングを実施</li> </ul> <p>(3)空き店舗調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JR3 駅周辺の空き店舗調査の新規出店と廃業テナントを調査し、駅周辺の空きテナントの状況をデータベース化。駅周辺の商圈の市場調査を実施</li> </ul> <p>(4)店舗診断、モデル店舗育成及び助成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家による店舗診断の実施 1 店舗</li> </ul>	3,000 (1,500)
6	ものづくり人材育成事業 (商工業振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国有数の製造業の拠点である臨海工業地帯を有する本市産業の特徴を周知し、臨海部工業への認識を深めるとともに、将来的には一人でも多くの地元就職へとつなげるため、教育課程に工業の授業がある小学5年生を対象とした産業教育パンフレットを配布</li> <li>・ 配布枚数 2,641 枚</li> </ul>	613 (307)
7	「知の情報拠点」推進事業 (中央図書館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創業者等へのビジネス支援として、中央図書館で5種類のオンラインデータベースを2016(平成28)年度から導入</li> <li>・ データベース利用件数 258 件</li> </ul> <p>【オンラインデータベースの種類】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①医中誌 Web『医学中央雑誌』</li> <li>②日経 BP 記事検索サービス公共図書館版</li> <li>③Web OYA-bunko 公立図書館版</li> <li>④ルーラル電子図書館</li> <li>⑤ELNET(イーエルネット)</li> </ol>	1,216 (608)